

## 6. 資料

1. 主な所蔵資料 .....	167
1. 図書資料 .....	167
2. その他 .....	168
2. 研究所関係資料 .....	169
1. 設立の経緯 .....	169
2. 年代別重要事項 .....	169
3. 歴代所長（昭和5年～平成29年度） .....	172
4. 名誉研究員 .....	173
5. 平成29年度予算等 .....	174
3. 東京文化財研究所関係事業索引 .....	179



# 1. 主な所蔵資料

## 1. 図書資料

### (1) 美術関係図書

日本・東洋・欧米の美術に関するものを中心に、各地方公共団体刊行の文化財関係調査報告書、展覧会の図録・目録類、売立目録など欧文あわせて約 155,418 冊の図書に加え、和文 5,471 種、韓文 51 種、中文 152 種、欧文 507 種におよぶ美術関係雑誌約 162,609 冊を所蔵している。

その他江戸期の写本版本をはじめ、明治大正期刊行の大型美術図録や美術雑誌、また明治から昭和初期に開催された各種博覧会展覧会資料など、多くの貴重書を所蔵している。

### (2) 無形文化遺産関係図書

古典芸能・民俗芸能・寺事・伝統的な技術、その他我が国の無形文化遺産の研究に必要な図書 17,621 冊を所蔵している。そのなかには、雅楽画報・演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎（第 1 次）・テアトロ（第 1 次）・新劇・上方・民俗芸能・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説など現在では入手しにくい雑誌、国立劇場ほかで行われる芸能公演の上演資料や声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本など、多くの貴重書を含んでいる。本年度は 207 冊を登録し、現在進行中である。

### (3) 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産・工芸技術・技術史に係る研究書、化学・物理学・生物学部門の保存科学関連図書、文化財修理工事報告書等を計約 9,500 冊、歴史的な航空関連雑誌を約 20,000 冊所蔵している。

### (4) 日本国外の文化遺産関係図書

国際資料室では、外国の文化財や文化財保存、文化財保存国際協力や文化財保護制度に関する国内外の図書資料を約 12,000 点所蔵する。また、文化財保護関連機関のパンフレットなど図書以外の文献資料の収集、さらに国内外の文化財保護関連法令資料の収集を実施している。2016（平成 28）年 1 月の施設改修に伴い、国際資料室蔵書は資料閲覧室書庫に移動した。

平成29年度における収集数（韓文・中文図書は、和漢書として計上）

区分	美術関係	無形文化遺産 関係	保存修復関係	日本国外の 文化遺産関係	計
和漢書	3,066 冊	206 冊	25 冊	85 冊	3,382 冊
洋書	121 冊	1 冊	6 冊	15 冊	143 冊
合計	3,187 冊	207 冊	31 冊	100 冊	3,525 冊

## 2. その他

### (1) 美術関係資料

文化財情報資料部が管理している写真資料は、絵画・彫刻・工芸・建築等の台紙貼写真、売立目録カードなど総数約 26 万点である。写真原板は、モノクロ 4×5 フィルム約 49,740 点、カラー 4×5 フィルム約 8,980 点、半切ほかガラス乾板約 21,000 点をはじめとして、各種サイズのモノクロフィルム約 3,450 点、X線フィルム・赤外線フィルム約 3,300 点などを所蔵している。また、当研究所旧職員梅津次郎、秋山光和、田中一松、久野健各氏寄贈研究資料の公開に向けた整理のほか、鈴木敬氏旧蔵写真資料の整理を行っている。このほか、拓本類、作家伝記資料、落款印章資料、近現代作家・団体・画廊・作品資料、資料スクラップ等と図版カード、各種索引類などを管理している。

### (2) 無形文化遺産関係資料

無形文化遺産部では、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能の技法を、録音・録画、写真撮影等の形で記録することを重要な業務としてきた。これまでに、現地での実況や所内舞台での演奏を記録したオープンリールテープ約 2,300 点、ビデオ 1,191 点、スチール写真は関連する文書の記録写真等も含め約 19 万点、CD はオープンリールテープをデジタル化した物を中心に 1,976 点、DVD3,829 点、BD740 点を作成してきた。本年度は、DVD36 点、BD33 点を登録した。加えて Hi8 のデジタル化にも着手し、DVD16 点を作成した。また、市販された伝統芸能関係の資料の収集も進めている。ことに、1960 (昭和 35) 年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションは、明治・大正・昭和 3 代にわたって発売された各種邦楽の SP レコードを網羅した約 6,000 枚の一大コレクションで、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。レコードの収集枚数は現在約 7,300 枚に及んでいる。その他これまでに、市販のビデオ 530 点、CD1,874 点、DVD1,354 点を収集してきた。うち本年度は、市販の CD25 点、DVD76 点、BD4 件を登録した。なお SP レコードコレクションの詳細は『音盤目録 I～V』(東京国立文化財研究所刊 1966～1996) で公表している。

### (3) 保存科学・修復技術関係資料

保存科学・修復技術関係資料：保存科学研究センターでは、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影した X 線フィルムを多数所蔵する。X 線透過撮影は昭和 20 年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。

### (4) 国際関係資料

文化遺産国際協力センターでは、日本の文化財保護に関する国際協力の分野で活躍した専門家の資料を受け入れている。関野克氏旧所蔵資料には、国際機関での会議や個別の文化遺産保存に関わる記録が含まれている。特に UNESCO の条約や勧告に関わる資料には、草案や日本政府の意見書なども含まれ、その成立の経緯や日本政府の関与なども知ることができる。また、千原大五郎氏旧蔵資料には、ポロブドゥール修復事業関連の会議録、書簡類、修復案、図面、オランダ統治時代の研究書や、その他の東南アジア諸国の遺跡に関する文献や図面、写真も数多く含まれる。さらに、野口英雄氏が収集した、文化財の危機管理やユネスコ日本信託基金による保存修復事業などに関する資料を受け入れている。

## 2. 研究所関係資料

### 1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成13）年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和27）年4月1日に発足し、その母体となったものは、1930（昭和5）年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鏝二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

### 2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年 2月 1日 同年10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。
昭和3年 9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和4年 5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年 6月28日 同年10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行政した。
昭和7年 1月 1日 同年 4月18日 同年 5月26日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。 帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和9年10月18日	毎年10月18日を開所記念日と定めた。
昭和10年 1月28日 同年 4月 同年 6月 1日	鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。 『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。 勅令第148号により美術研究所官制が公布された。

期 日	事 項
昭和10年 6月 1日	研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和12年 6月24日	勅令第281号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。
同年 11月29日	美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和13年 2月12日	木造、平屋建、延面積97㎡の写真室1棟が竣工した。
昭和19年 8月10日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和20年 5月28日	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町1丁目本間家倉庫3棟に疎開した。
同年 7～8月	酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和21年 3月29日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。
同年 4月 4日	酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。
同年 4月16日	東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和22年 5月 3日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66㎡）に設けた。
昭和25年 8月29日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和26年 1月31日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和27年 4月 1日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。
同年 7月 1日	芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和28年 4月26日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫132㎡を改造のうえ移転した。
昭和29年 7月 1日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和32年 3月22日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。
同年11月30日	従来の2階建書庫の上にさらに1階を増築3階建とし、増築分延面積71㎡が竣工した。
昭和34年 4月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年 9月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年 3月31日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2階建、延面積663㎡の建物1棟が竣工した。
同年 7月 1日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。
同年 7月20日	芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年 6月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和44年 8月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和45年 3月25日	前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。芸能部は、別館3階に移転した。
同年 5月 8日	保存科学部は別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を完了した。
同年 6月29日	保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が完了した。
同年11月 2日	所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12番53号」から「13番27号」に変更された。
昭和46年 4月 1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。

期 日	事 項
昭和48年 4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年 4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年 3月20日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積 144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積 569.95㎡の建物が竣工した。
同年 4月 5日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年 6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成 2年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成 5年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成 7年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。 東京藝術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成 9年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年 2月 4日	新当庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積 10,557.99㎡（建築面積 2,258.48㎡）が竣工した。
同年 2月21日	新当庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。
同年 3月 6日	新当庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。
同年 3月22日	建設省関東地方建設局営繕部より、新当庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新当庁舎関係の工事が完了した。
同年 5月11日	新当庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了した。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年 3月29日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。
同年 4月 1日	東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官一情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官一情報調整室となった。
平成15年 9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事をを行った。
平成18年 4月 1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官一情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年 4月 1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。
平成28年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、企画情報部は文化財情報資料部に、保存修復科学センターは保存科学研究センターとなった。

### 3. 歴代所長（昭和5年～平成29年度）

役 職	氏 名	期 間
主 事	正木直彦	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
主 事	矢代幸雄	昭和 6.11.25～昭和 10. 5.31
所長事務取扱	和田英作	昭和 10. 6. 1～昭和 11. 6.21
所 長	矢代幸雄	昭和 11. 6.22～昭和 17. 6.28
所長事務取扱	田中豊蔵	昭和 17. 6.29～昭和 22. 8.15
所 長	田中豊蔵	昭和 22. 8.16～昭和 23. 5.10
所 長 代 理	福山敏男	昭和 23. 5.11～昭和 24. 8.30
所 長	松本栄一	昭和 24. 8.31～昭和 27. 3.31
所長事務代理	矢代幸雄	昭和 27. 4. 1～昭和 28.10.31
所 長	田中一松	昭和 28.11. 1～昭和 40. 3.31
所 長	関野 克	昭和 40. 4. 1～昭和 53. 4. 1
所 長	伊藤延男	昭和 53. 4. 1～昭和 62. 3.31
所 長	濱田 隆	昭和 62. 4. 1～平成 3. 3.31
所 長	西川杏太郎	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
所 長	渡邊明義	平成 8. 4. 1～平成 13. 3.31
(独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行)		
所 長	渡邊明義	平成 13. 4. 1～平成 16. 3.31
所 長	鈴木規夫	平成 16. 4. 1～平成 19. 3.31
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行)		
所 長	鈴木規夫	平成 19. 4. 1～平成 22. 3.31
所 長	亀井伸雄	平成 22. 4. 1～現在



## 4. 名誉研究員

氏名	退職時官職名	在所期間	名誉研究員 発令年月日
江上 綏	情報資料部主任研究官	昭和 38. 5. 18～昭和 59. 3. 31	昭和 59.10.18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和 22. 6. 27～昭和 60. 3. 31	昭和 60.10.18
三隅治雄	芸能部長	昭和 27.10. 1～昭和 63. 3. 31	昭和 63.10.18
濱田 隆	所長	昭和 62. 4. 1～平成 3. 3. 31	平成 3.10.18
関口正之	美術部長	昭和 42. 2. 1～平成 3. 3. 31	平成 3.10.18
佐藤道子	芸能部長	昭和 34. 4. 1～平成 4. 3. 31	平成 4.10.18
馬淵久夫	保存科学部長	昭和 50.10. 1～平成 4. 3. 31	平成 4.10.18
新井英夫	保存科学部長	昭和 45. 9. 1～平成 5. 3. 31	平成 5. 4. 1
西川杏太郎	所長	平成 3. 4. 1～平成 8. 3. 31	平成 8. 4. 1
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭和 53. 8. 1～平成 8. 3. 31	平成 8. 4. 1
蒲生郷昭	芸能部長	昭和 56. 4. 1～平成 10. 3. 31	平成 10. 4. 1
中里壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和 39. 4. 1～平成 10. 3. 31	平成 10. 4. 1
宮本長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成 6. 4. 1～平成 11. 3. 31	平成 11. 4. 1
羽田 昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和 51. 4. 1～平成 12. 3. 31	平成 12. 4. 1
中村茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和 39. 7. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
増田勝彦	修復技術部長	昭和 48. 8. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
米倉迪夫	情報資料部長	昭和 50. 9. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
星野 紘	芸能部長	平成 10. 4. 1～平成 14. 3. 31	平成 14. 4. 1
平尾良光	保存科学部化学研究室長	昭和 62. 4. 1～平成 15. 3. 31	平成 15. 4. 1
井手誠之輔	協力調整官一情報調整室長	昭和 62. 7. 1～平成 16. 3. 29	平成 16. 3. 30
斎藤英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成 11. 4. 1～平成 16. 3. 30	平成 16. 3. 31
西浦忠輝	保存科学部長	昭和 50. 7. 1～平成 16. 3. 31	平成 16. 4. 1
鈴木廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和 54. 9. 1～平成 17. 11. 30	平成 17. 12. 1
青木繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和 49. 7. 1～平成 19. 3. 31	平成 19. 3. 31
三浦定俊	副所長	昭和 48. 8. 1～平成 20. 3. 31	平成 20. 4. 1
鎌倉恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和 63. 4. 1～平成 20. 3. 31	平成 20. 4. 1
鈴木規夫	所長	平成 16. 4. 1～平成 22. 3. 31	平成 22. 4. 1
中野照男	副所長	平成 4. 4. 1～平成 23. 3. 31	平成 23. 4. 1
清水真一	文化遺産国際協力センター長	平成 19. 4. 1～平成 23. 3. 31	平成 23. 4. 1
石崎武志	副所長	平成 8. 12. 1～平成 26. 9. 30	平成 26. 10. 1
田中 淳	副所長	平成 6. 11. 1～平成 28. 3. 31	平成 28. 4. 1
川野邊涉	文化遺産国際協力センター長	昭和 63. 10. 1～平成 28. 3. 31	平成 28. 4. 1
岡田 健	保存科学研究センター長	平成 4. 4. 1～平成 29. 3. 31	平成 29. 4. 1
津田徹英	文化財情報資料部長	平成 11. 1. 1～平成 30. 3. 31	平成 30. 4. 1

## 5. 平成29年度予算等

(単位：千円)

### (1) 予算

事 項	予算額
一般管理費	100,045
基礎研究事業費	66,412
応用研究事業費	125,788
国際遺産保護事業費	107,534
情報公開事業費	91,709
研修協力事業費	3,459
合 計	494,947

### 予算とプロジェクトとの対応

#### 文化財情報資料部

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
シ 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	情報公開事業費
シ 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	日本東洋美術史の資料学的研究	基礎研究事業費
シ 03	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	基礎研究事業費
シ 04	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	基礎研究事業費
シ 05	④情報収集・成果公開に関する事業	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	情報公開事業費
シ 06	④情報収集・成果公開に関する事業	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	情報公開事業費
シ 07	⑤刊行物に関する事業	平成28年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	情報公開事業費
シ 08	④情報収集・成果公開に関する事業	平成29年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	情報公開事業費

#### 無形文化遺産部

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
ム 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 03	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	情報公開事業費
ム 04	⑤刊行物に関する事業	無形文化遺産部出版関係事業	情報公開事業費
ム 05	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	国際遺産保護事業費

#### 保存科学研究センター

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
ホ 01	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	応用研究事業費
ホ 02	②保存修復に関する調査研究事業	保存と活用のための展示環境の研究	応用研究事業費
ホ 03	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	応用研究事業費
ホ 04	②保存修復に関する調査研究事業	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 05	②保存修復に関する調査研究事業	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 06	②保存修復に関する調査研究事業	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 07	⑤刊行物に関する事業	『保存科学』第57号の出版	情報公開事業費
ホ 08	⑥指導助言・研修等に関する事業	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	研修協力事業費

文化遺産国際協力センター

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
コ01	④情報収集・成果公開に関する事業	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	情報公開事業費
コ02	③国際協力・交流等に関する事業	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	国際遺産保護事業費
コ03	③国際協力・交流等に関する事業	保存修復技術の国際的応用に関する研究	国際遺産保護事業費
コ04	③国際協力・交流等に関する事業	在外日本古美術品保存修復協力事業	国際遺産保護事業費
コ05	③国際協力・交流等に関する事業	国際研修	国際遺産保護事業費

(2) 科学研究費助成事業交付一覧

(単位：千円)

研究課題	研究代表者	交付額
<b>基盤研究 (B)</b>		
対外交渉史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	2,730
酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	早川典子	1,690
<b>基盤研究 (B) 海外</b>		
ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川佳文	5,070
ブータンの版築建造物の類型と編年に関する研究	亀井伸雄	5,460
<b>基盤研究 (C)</b>		
虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚将英	1,430
黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	大河原典子	2,470
環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津信明	1,300
津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野千絵	1,820
日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川泰弘	1,560
空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神葉子	(1,353)
平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林達朗	(977)
徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野真由美	1,170
ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	安倍雅史	1,560
<b>挑戦的萌芽研究</b>		
実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の—指針として—	菊池理予	(548)
紙本屏風の規格と表現・技法の研究	江村知子	2,730
<b>若手研究 (A)</b>		
染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	菊池理予	4,030
墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	宇高健太郎	1,560
<b>若手研究 (B)</b>		
紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田啓子	1,300
アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に—	今石みぎわ	1,430
イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田大樹	1,560
リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間渕創	910
放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕麻里耶	780
<b>特別研究員奨励費</b>		
墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高健太郎	1,430
毘沙門天像の成立と展開—唐・宋・元から平安・鎌倉へ—	佐藤有希子	1,300

研究課題	研究代表者	交付額
<b>特別研究員奨励費（外国人特別研究員）</b>		
2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究	橘川英規	1,100
<b>研究活動スタート支援</b>		
伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究	マルティネス アレハンドロ	780
<b>研究成果公開促進費</b>		
SAT 大正新脩大藏經 圖像データベース	津田徹英	4,500

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

### (3) 受託調査研究一覧

(単位：千円)

研究課題	依頼元	研究代表者	契約総額
文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	文化庁	中山俊介	7,241
文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化庁	友田正彦	20,535
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化庁	中山俊介	44,348
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	文化庁	佐野千絵	37,349
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	文化庁	佐野千絵	19,005
文化遺産国際協力拠点交流事業「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	奈良文化財研究所	友田正彦	4,750
絵金屏風の保管環境及び保管・展示方法に関する調査研究	公益財団法人 熊本市美術文化振興財団	佐野千絵	300
被災資料有害物質発生状況調査業務	陸前高田市	佐野千絵	2,399
著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業	文化庁	江村知子	997

### (4) 共同研究等一覧

(単位：千円)

研究課題	共同研究者	研究代表者	金額
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	北河大次郎	400
ゲッティ・リサーチポータルへの明治期～昭和期（戦前）の展覧会資料（デジタル）の提供・公開	The J. Paul Getty Trust	山梨絵美子	1,758 (3,516)

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

### (5) 助成金一覧

(単位：千円)

研究課題	助成元	研究代表者	助成額
日本絵画の色と材料「Color & Material」	公益財団法人出光文化福祉財団	早川泰弘	4,000
バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	公益財団法人住友財団	前川佳文	3,000

(6) 寄付金一覧

(単位：千円)

研究課題	寄付者	担当部局	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	文化財情報資料部	1,000
東京文化財研究所における研究成果の公表(出版事業)	東京美術商協同組合	文化財情報資料部	1,000

年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
29年4月13日	木製文化財の虫害に関するワークショップ (イラン・エスファハーン：ダフシュティー邸、アーリー・カープー宮殿内ICHHTO 支局事務所)
29年4月28日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会 (奈良文化財研究所)
29年5月30日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会(東京国立博物館)
29年6月19日	フォローアップ研修「展示・収蔵空間における空気環境の改善」
29年7月5日~14日	ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」(ベルリン国立博物館アジア美術館)
29年7月10日~21日	博物館・美術館等保存担当学芸員研修
29年7月29日	「染織品を中心とする文化財の保存にかかる共同研究」締結キックオフ集会 (佐賀大学本庄キャンパス)
29年8月8日~9日	科学的な材料とその使用方法の講習会
29年8月9日~18日	ワークショップ「染織品の保存と修復」(国立台湾師範大学文物保存維護研究發展センター)
29年8月28日 ~9月15日	国際研修「紙の保存と修復」
29年9月11日~20日	染織文化遺産保存修復研修「染織芸術と保存—過去と現在を結ぶ」 (アルメニア共和国歴史文化遺産科学研究センター、エチミアジン大聖堂付属博物館)
29年9月26日	セミナー「インドにおける文化遺産保護と最新のインダス文明研究」
29年10月29日 ~11月5日	博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修
29年10月30日 ~11月2日	研修「壁画保存に向けた課題と問題」(トルコ共和国ネグシェヒール・ハジュ・ベクタシュ・ヴェリ大学)
29年11月2日~3日	第51回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」
29年11月8日~9日	評価セミナー2017：ワークショップ「漆工芸品の保存と修復」
29年11月13日	箕サミット—編み組み細工を語る
29年12月6日	研究会「キャスリーン・サロモン氏(ゲッティ研究所副所長)講演会—日本美術資料の国際情報発信に向けて」
29年12月9日	第1回祭ネットワーク
29年12月18日	第12回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」
30年1月18日	世界遺産研究協議会「世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」
30年1月19日	東南アジア古代都市・建築研究会 東南アジアの古代都市を考える
30年1月20日	東南アジア古代都市・建築研究会 アンコールおよびバガン王宮の建築を探る (東京国立博物館 黒田記念館)
30年2月6日、21日	「無形文化遺産の防災」連絡会議
30年2月19日	第1回無形文化遺産映像記録作成研究会
30年3月13日	ブータンの伝統的民家保存に関するワークショップ(ブータン内務文化省文化局)
30年3月16日	研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」



### 3. 東京文化財研究所関係事業索引

#### 凡 例

- (1) この索引は、平成29年度に東京文化財研究所が実施したすべての事業を、財源の種類を問わず網羅している。  
 (2) 事業は五十音順に配列し、各事業名称の末尾に次の略号を付すとともに、掲載頁を示した。

運営費交付金によるプロジェクト	【交付】
科学研究費助成事業	【科研】
受託調査研究	【受託】
共同研究	【共同】
助成金	【助成】
その他の調査研究	【その他】

あ	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に—	【科研】	100
	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	【交付】	49
	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	【科研】	101
	絵金屏風の保管環境及び保管・展示方法に関する調査研究	【受託】	114
	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	【交付】	44
か	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	【科研】	88
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	【交付】	37
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	【交付】	46
	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	【科研】	91
	黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	【科研】	86
	ゲッティ・リサーチポータルへの明治期～昭和期(戦前)の展覧会資料(デジタル)の提供・公開	【共同】	119
	航空資料保存の研究	【共同】	118
	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	【科研】	82
	国際研修	【交付】	52
	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	【受託】	112
さ	SAT大正新脩大藏經 画像データベース	【科研】	83
	在外日本古美術品保存修復協力事業	【交付】	51
	ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	【科研】	84
	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	【科研】	99
	実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の—指針として—	【科研】	94
	紙本屏風の規格と表現・技法の研究	【科研】	93
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	【科研】	102
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	【科研】	96
	染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	【科研】	95
	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	【交付】	55
た	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	【科研】	79
	著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業	【受託】	117
	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	【科研】	89

	伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究……………	【科研】 105
	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進……………	【交付】 73
	『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』……………	【交付】 64
	徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究……………	【科研】 87
	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務……………	【受託】 113
	虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究……………	【科研】 85
な	2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究……………	【科研】 104
	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究……………	【科研】 90
	日本絵画の色と材料「Color & Material」……………	【助成】 121
	日本東洋美術史の資料学的研究……………	【交付】 36
は	バガン遺跡群(ミャンマー)寺院祠堂壁画の保存修復……………	【助成】 120
	博物館・美術館等保存担当学芸員研修……………	【交付】 68
	被災資料有害物質発生状況調査業務……………	【受託】 116
	毘沙門天像の成立と展開 一唐・宋・元から平安・鎌倉へ一……………	【科研】 103
	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言……………	【交付】 72
	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開……………	【交付】 38
	プータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究……………	【科研】 81
	プロジェクトの一環として刊行された刊行物……………	【交付】 65
	プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等……………	【交付】 59
	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」……………	【受託】 110
	文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」……………	【受託】 109
	文化遺産国際協力拠点交流事業 「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」……………	【受託】 115
	文化遺産国際協力コンソーシアム事業……………	【受託】 111
	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信……………	【交付】 58
	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究……………	【交付】 45
	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究……………	【交付】 53
	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究……………	【交付】 35
	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究……………	【交付】 43
	文化財の材質・構造に関する調査・助言……………	【交付】 72
	文化財の修復及び整備に関する調査・助言……………	【交付】 71
	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究……………	【交付】 41
	文化財の虫菌害に関する調査・助言……………	【交付】 70
	文化財の評価・活用に関する助言……………	【交付】 69
	文化財防災ネットワーク推進事業……………	【その他】 122
	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力……………	【交付】 47
	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究……………	【科研】 92
	平成29年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)……………	【交付】 56
	平成28年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』……………	【交付】 64
	放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発……………	【科研】 98
	『保存科学』第57号の出版……………	【交付】 64
	保存修復技術の国際的応用に関する研究……………	【交付】 50
	保存と活用のための展示環境の研究……………	【交付】 42
	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立……………	【科研】 80
ま	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化……………	【交付】 57
	無形文化遺産に関する助言……………	【交付】 70
	無形文化遺産部出版関係事業……………	【交付】 64
	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集……………	【交付】 48
	無形文化財の保存・継承に関する調査研究……………	【交付】 39
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究……………	【交付】 40
ら	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究……………	【科研】 97